

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。	可能性・拡張性から見て光ファイバーの設置は好ましい。できるだけ100%に近づけるべき。しかし家庭内ではすべて光で結べる訳ではなく、WIFI等の接続になる。その意味ではLAST 1 mileは過剰なコストをかけてまで光にこだわる必要はない。むしろ次項にあげるアプリケーションの要求する帯域と可用性が担保される条件で柔軟に考えるべき。
2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。	<p>国民が真に必要とするキラーアプリケーションを追求すべき。国民の最大関心事は健康、安全、老後であり、国民の手でこれらを実現するための基盤をユニバーサルサービスとして実現する必要がある。そのためには健康に関しては最低限の健康情報を活用する基盤(原ロビジョンに言う日本版 EHR)を早急にユニバーサルサービスとして国と自治体が協力して整備すべき。また安全・老後に関しては地域見守りを実現するためのユニバーサルな基盤を整備すべき。これら二つの基盤はIT的には共通の要素がほとんどで、国と自治体が協力すればユニバーサルサービスとして早期に実現可能と考えられる。国民の自身の情報のコントロールを基本とするこれらの基盤がなければ地方公共団体や医療機関に潤沢なネットワーク環境を整備しても利用されない。(現状の環境さえ十分に利用されていない。)</p> <p>一方でこのような基盤が整えば、地域コミュニティの活性化にもつながり、また、地域医療連携、遠隔医療の実現に関するコストを下げることができ、また、極端な格差を引き起こすことなく実現できる。</p> <p>また国民の側に情報を活用する基盤が整備されれば、情報を提供する側である地方公共団体や医療機関等の情報化への取り組みもニーズに基づき推進されることが期待される。</p>